

アンケート結果にみる授業の成果と課題（令和元年度）

教育臨床講座・山田 誠

1. 授業の概要

（1）受講者

本授業「子どもと大人の学びの支援」は、学校教育教員養成課程初等教育コース小学校サブコースのコース科目（選択科目）である。受講学生は11名である。内訳は、2年次生3名、3年次生4名（社会共創学部生1名を含む）、4年次生4名（うち3名は旧科目への読替履修であった）。

（2）授業の目的・到達目標

本授業の目的は、まず、生涯学習を支援するための基礎的知識を身につけ、とりわけ大人（成人期）の学びの支援について、子どもの学びの支援と対比させ、関連付けながら理解することである。また、各教育部門の取り組みにおいて、子ども期から成人期へと、生涯学習者としての成長をどのように支援することができるかを考えることができるようになるということである。

授業の到達目標は、次の4項目である。

1) 生涯学習、生涯教育に関する基礎概念、及び生涯学習関連施策の動向を把握し、説明できる。

2) 学習支援の基礎理論及びアンドラゴジの原理について理解し、説明できる。

3) 生涯学習者としての成長や自己主導的学習の支援について理解し、説明できる。

4) 学校教育や社会教育等、各教育部門の特質を把握し、各部門において生涯学習者としての成長の支援にどのように取り組まれるべきかを主体的に考え、論述することができる。

（3）関連するディプロマ・ポリシー（DP）

本学部の卒業時の到達目標（DP）のうち関連する項目は、「教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」を想定している。

（4）授業の方法・形態

基本的には教科書・配付資料や板書を用いた講義形式中心の授業であるが、映像教材の

視聴、発問や受講者の意見発表、受講者との対話を取り入れるようにしている。加えて、筆者は、受講者との双方向性を確保するとともに、受講者における授業内容の理解・定着や思考の深化を促す手立てとしてコメント（振り返り）カードを用いている。また、授業時間外に教科書を読んで学んだことや図書館等を利用した自己学習・発展的学習を行った成果をコメントカードに記入・報告することを奨励するとともに、その記述内容も評価の対象とすることを伝えている。

2. アンケート結果

最終15回目の授業（まとめと評価）のなかで、期末試験の前に、授業全体を振り返っての、受講者による授業評価アンケートを実施した。アンケートは、無記名で、4段階評価形式の質問が4項目9問と自由記述形式の質問が2問である。受講者11名全員から回答を得られた（やむを得ぬ理由により当日欠席し、後日の追試験時に回答した1名を含む）。以下には、アンケート結果のうち授業全般に関するものを示す。

【授業の内容に関する質問】

1-1. [関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について、関心・興味がわいた。

4. そう思う：1名（9.1%）

3. まあそう思う：9名（81.8%）

2. あまりそう思わない：1名（9.1%）

1. そう思わない：0名（—）

「そう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的回答の割合が90.9%であった。前年度アンケートでの同じ質問に対する肯定的回答は91.7%で、若干数値が下がった。

【授業担当者の授業方法に関する質問】

2-1. [わかりやすさ] 教員の説明の仕方はわかりやすかった。

4. そう思う：2名（18.2%）

3. まあそう思う：8名（72.7%）

2. あまりそう思わない：1名（9.1%）

1. そう思わない：0名（—）

2-2. [教材等の使用] 教科書、プリント、ビデオ、黒板（ホワイトボード）等の使い方は効果的だった。

4. そう思う：3名（27.3%）
3. まあそう思う：5名（45.5%）
2. あまりそう思わない：2名（18.2%）
1. そう思わない：1名（9.1%）

2-3. [コメントカード] 毎回コメントカードを記述することが、授業内容について振り返るとともに、理解や考えを深めるのに役立った。

4. そう思う：5名（45.5%）
3. まあそう思う：5名（45.5%）
2. あまりそう思わない：1名（9.1%）
1. そう思わない：0名（－）

授業方法に関する上記3つの質問に対する肯定的回答は、順に90.9%、72.7%、90.9%である。前年度の同じ質問に対する肯定的回答は、順に100.0%、83.3%、83.3%であり、幾分上下の変動が見られる。

【授業全体に関する質問】

3-1. [得るものがあったか] この授業により、考えが培われたり、得るところがあった。

4. そう思う：3名（27.3%）
3. まあそう思う：8名（72.7%）
2. あまりそう思わない：0名（－）
1. そう思わない：0名（－）

3-2. [目的・目標達成度] この授業の目的・目標は達成された。

4. そう思う：1名（9.1%）
3. まあそう思う：9名（81.8%）
2. あまりそう思わない：1名（9.1%）
1. そう思わない：0名（－）

3-3. [満足度] この授業は全体として満足のいくものだった。

4. そう思う：2名（18.2%）
3. まあそう思う：6名（54.5%）
2. あまりそう思わない：3名（27.3%）
1. そう思わない：0名（－）

授業全体に関する評価について、上の3つの質問に対する肯定的回答は、順に100.0%、90.9%、72.7%である。前年度の同じ質問に対する肯定的回答は、いずれも100.0%であ

り、残念ながら目的・目標の達成度及び満足度において低下している。

【自由記述】（抜粋）

1) この授業を通して学ぶことができたこと、考えが培われたことは、どのようなことですか。

・生涯学習は、個人が社会でよりよく生活するために大切であり、国と社会で支援すべきであるということ。

・生涯教育について学び、必要性和方針、目標などあらゆる視点から見れるようになった。その上で、生涯教育をキーワードとして捉え、体系的にまとめた内容を理解することで、この授業を受けていない人にも説明できるようになった。

・生涯学習が形成されてきた成り立ちを詳しく知ること、学習に対する捉え方は時代とともにかなり変わってきていることが分かりました。

・生涯学習において地域社会、家庭、学校教育の連携の重要性について興味関心を持つきっかけとなった。・・・アンドラゴジーとペダゴジーについても、どのように生涯かけて、一人一人の成熟度の違いに応じてバランスの取れた教育をしていくかが大切なことも学ぶことができた。

・これまでの考えでは大学までで終わっていた学習が形を変えて大学卒業後も行うことが出来て、かつ、その学習は学習者主体であり、学習者が求めなければ何も起こらないこと、良い意味で学習者次第であるということが自分の中で変わった観点。

・生涯にわたって学習していくことで、社会と自己との関わりの深さ、また学ぶことの重要さと、難しさがあることを知れた。その中で、生きる上で学びが幸福につながり、よりよく生きられるための鍵であることも理解できた。

2) 授業でよかった点、あるいは、こう改善するとよいという指摘など、自由に記述してください。

・プリントが分かりやすかったです。黒板に図を適切に示していたので理解の助けになりました。

・先生が追加で黒板に図や用語の説明を書いてくださったので分かりやすかった。

・教科書だけではなく、レジュメを用いて授業が行われ、補足資料もあったため理解しやすかった。

・今まで興味のなかった生涯学習という観点に興味を持てたのは非常に良かった。また、今までにない考え方を学んだのでとても楽しかった。

・話がくどいというか長いと思う。もっと簡潔に話してほしかった。

・板書が少し長すぎるように感じた。書くのに集中し、先生の話が聞きづらかった。

・コメントシートを書く時間が授業後にまで長引くことがあったため、焦ってしまうこともあり、時間をもう少し取ることも必要だと思った。授業中に先生の話の聞きながら書いている人もいたので、改善した方がよいと思った。

・グループワーク等があれば、他の人の意見が聞けて、もっと学びにつながるのかなと感じました。

3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

(1) 本授業について

今年度も、「地域社会を核とした教育と研究のつながり」という観点から授業を計画し直したり、シラバスを変更したりするには至れなかった。だが、今年度も引き続き、地域で実施される教育・ボランティア活動や関連イベント等について、学生も参加対象に含まれ、学生にとって有意義な経験や学びの機会になりうると思われるものについては、学内各所の掲示やチラシ配布、学生・院生への声掛けをし、また、授業中に紹介・参加呼び掛けを行うなど、できるだけ協力させていただいた。授業時間を使って紹介する場合、参加者募集のための情報提供にとどまらず、地域社会における取組、活動事例として学習の一環となるように配慮している。

(2) アンケートから

前年度同様、最終回に実施した授業評価アンケートにおいて、「地域社会における教育活動についての関心・理解に関する質問」という項目を立て、2問設定した。

【地域社会における教育活動についての関心・理解に関する質問】

4-1. [理解の進展] この授業を通して、社会教育活動（公民館、博物館（学芸員）、社会教育主事、PTA等）をはじめ、地域の教育・ボランティア活動（学校教育支援、家庭教育支援、学校・家庭・地域の連携・協力等）についての理解が深まった。

4. そう思う：3名（27.3%）

3. まあそう思う：8名（72.7%）

2. あまりそう思わない：0名（-）

1. そう思わない：0名（-）

肯定的回答が100.0%と好ましい結果であった。昨年度も同じ質問に対する肯定的回答は100.0%であったが、その内訳は、「そう思う」58.3%、「まあそう思う」41.7%で、今回は強い肯定の比率が下がっている。

4-2. [情報の提供] この授業で提供された、地域の教育・ボランティア活動や関連イベント（地域教育中予ブロック集会等）に関する情報は、興味・関心を持てた。

4. そう思う：1名（9.1%）

3. まあそう思う：6名（54.5%）

2. あまりそう思わない：3名（27.3%）

1. そう思わない：1名（9.1%）

肯定的回答が63.6%であった。昨年度の同じ質問に対する肯定的回答は100.0%であり、今回の方が低くなっている。

4. 総括

4段階評価による回答結果については、概ね肯定的な評価が得られてはいるものの、前年度との比較においては、評価の低下した項目がみられた。肯定的評価、特に「そう思う」の比率をより高めていくことが必要である。

一方、自由記述による回答においては、本授業を通して、一定の成果を感じ取ってもらえているように思える。しかし、改善を要する点の指摘や改善策の提案もあった。

アンケートの結果を活かし、引き続き、授業改善に努めていきたい。また、「地域社会を核とした教育と研究のつながり」という観点からも、今後の授業づくりについて検討したい。